

大阪府立成人病センター整備事業に伴う

大坂城跡の発掘調査



大坂城跡発掘調査現地公開資料

平成 25 年 11 月 23 日

大坂城三の丸とは

天正 10（1582）年、織田信長が本能寺の変によって倒れた後、羽柴秀吉は天下統一の拠点として大坂城を築城します。着手からわずか 2 年足らずで本丸が完成した後も、二の丸や惣構そうがまえを築き、大坂は城下町として繁栄しました。さらに晩年になって秀吉は、惣構の内側に三の丸の築造を命じました。これは町屋を船場へ移した後、伏見にあった大名屋敷を移転させるためでした。三の丸の築造は秀吉の死後ようやく完成しますが、慶長 19（1614）年におきた大坂冬の陣の後に完全に壊されてしまったため、位置や規模が不明でした。しかし、『偃台武鑑』せんたいぶかんの「大坂冬の陣配陣図」に三の丸が描かれていたことがわかり、その位置が推定されるようになりました。

また、近年周辺での発掘調査が進み、三の丸の姿が明らかになりつつあります。この調査地の隣接地でも大名屋敷の一部や、南北方向にはしる障子堀（底に壁が縦横に築かれている堀）などがみつかっています。

調査成果

今回の調査は、大阪府立成人病センター整備事業に伴うもので、地方独立行政法人大阪府立病院機構が委託し、大阪府教育委員会文化財保護課の指導のもと、公益財団法人大阪府文化財センターが平成 25（2013）年 7 月から行っています。

調査地は上町台地上を東西方向にのびる谷の北辺肩部にあたります。調査地内における谷の深さは約 5 m ですが、慶長 20（1615）年の大坂夏の陣の後に徳川氏により一気に埋められ、江戸時代には平坦な地形にされてしまいます。

調査はこれまで三の丸築造時から江戸時代までの三時期について行いました。三の丸築造時の遺構面からは礎石建物の一部や井戸、炉跡などがみつかりました。また、大坂夏の陣の後から谷が埋められる直前までのわずかな間も畠として利用されていました。さらに、谷を埋めた後の江戸時代の遺構面から、刻印石を含む残石がみつかった堀や、焼けた瓦や陶磁器が捨てられた土坑（穴）がみつかりました。



▲大坂夏の陣前の遺構面



▲大坂夏の陣前の遺構面



▲104 炉跡

炉の底には多量の炭が残っていました。また、炉の壁は熱によって赤く変色しています。



▲焼けた礎石

礎石の上のよく焼けている部分が柱の位置です。大坂夏の陣の際に焼け落ちたと考えられます。



▲ミニチュアの船

落込みからみつかりました。



▲148 埋甕

大きな甕が埋められていました。トイレと考えられます。



▲豊臣時代の陶磁器

国内外で焼かれた陶磁器が使われていました。



▲金箔軒丸瓦

赤漆を接着剤にして、金箔を貼りつけています。



▲豊臣期大坂城外郭線推定図

年号	西暦	事 項	年号	西暦	事 項
天正8	1580	織田信長との抗戦により、石山本願寺焼亡	文禄3	1594	大坂城惣構築造開始
天正10	1582	本能寺の変、信長が自刃	文禄4	1595	秀吉、秀次の関白職を剥奪し、秀次自刃
天正11	1583	賤ヶ岳の戦、秀吉が柴田勝家を破る	慶長元	1596	慶長の大地震
		秀吉、摂津を占有し大坂城本丸築城を開始	慶長2	1597	朝鮮再征(慶長の役)
天正12	1584	小牧長久手の戦、秀吉、徳川家康と和す	慶長3	1598	大坂城三の丸築造開始
		大坂城本丸完成			秀吉没
天正13	1585	秀吉、関白に任ぜられる	慶長5	1600	関が原の戦
天正14	1586	大坂城二の丸築造開始	慶長8	1603	家康、征夷大將軍に任ぜられ、江戸幕府を開く
		秀吉、太政大臣に任ぜられ、豊臣の姓を賜る	慶長10	1605	徳川秀忠、征夷大將軍に任ぜられる
天正16	1588	大坂城二の丸完成	慶長19	1614	大坂冬の陣
天正18	1590	小田原の北条氏降伏、秀吉の天下統一成る	慶長20	1615	大坂夏の陣
天正19	1591	秀吉、関白職を甥の秀次に譲り太閤と号する			秀頼、淀殿自刃、豊臣氏滅亡
		千利休、自害する	元和6	1620	大坂城再建工事開始
文禄元	1592	秀吉、朝鮮征討(文禄の役)	寛永6	1629	大坂城再建工事終了

▲大坂城の歴史

江戸時代の遺構面

江戸時代の遺構面は厚さ約1mの近・現代層を取りのぞいて確認しました。みつかった遺構は、土坑（穴）や、東西方向にのびる堀などです。

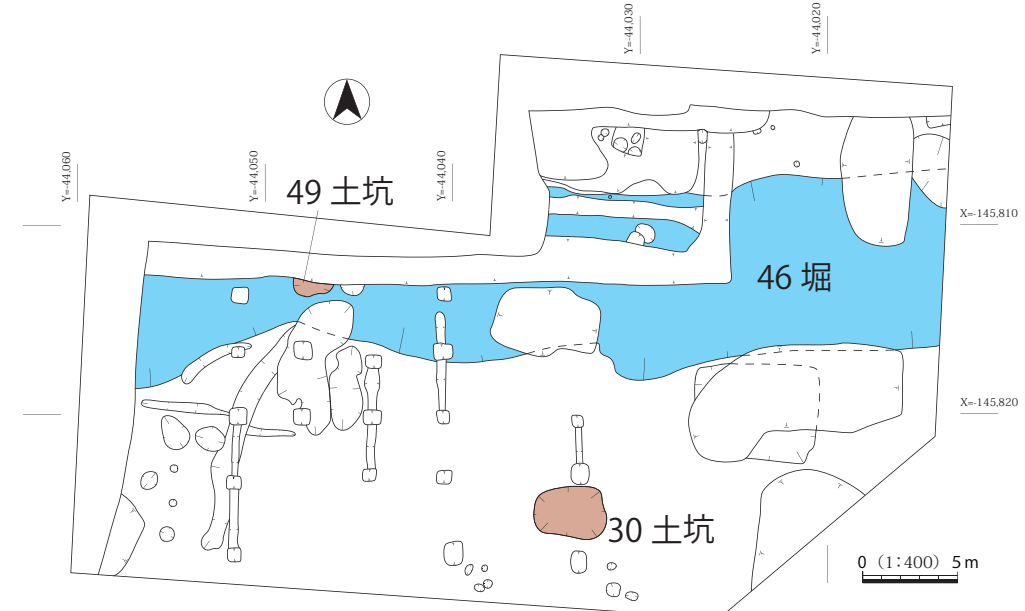
土坑の中からは焼けた土や炭などと共に多量の陶磁器が捨てられていました。瓦や陶磁器類の中には熱で変形したり変色したものもあり、火災にあったために片づけられたものと考えられます。

46 堀は幅8.5m、深さ1.5～2.0mの規模をはかり、堀の断面の形は逆台形をしています。土層観察の結果、水が溜まっていなかった空堀であったようです。

この堀は一気に埋め戻されていましたが、刻印石をふくむ26個もの大きな石が捨てられていました。



▲江戸時代の遺構面



▲江戸時代の遺構面



▲46 堀 堀の底に捨てられた残石群。



▲▼今回みつかった刻印と推定される大名

- △ ... 中川内膳正久盛 豊後岡藩 七万四百石
- 三 ... 松平（池田）新太郎光政 因幡鳥取藩 三十二万石
- ⊖ ... 松倉豊後守重政 肥前島原藩 五万石

◀ 墨書のある残石 矢跡部分に「口」と書かれています。

大坂城に残された刻印石

徳川氏によって再築された大坂城は、元和6（1620）年から寛永6（1629）年までの9年間、三期にわたって西国大名など60有余の大名に命じた天下普請^{ふしん}で行われました。その際、石切場における採掘権や、石垣普請丁場において分担地区を明示するため、石に家紋や家印などを刻みました。

46 堀からみつかった残石

46 堀からみつかった26個の石は、大坂夏の陣の後、徳川秀忠や家光が西国大名を中心に命じて大坂城を再築した際に大坂城の石垣に使用された石材の残石です。石の中には刻印があるもの（刻印石）19個をはじめ、墨書が残るもの、石を割った時の矢の痕跡が残っているものがありました。しかし、石垣の表に使用できる石はほとんどなく、割り石を採った後の端石と考えられる自然面が残るものや、中には丸い自然石までもみられました。

19個の刻印石のうち△の刻印が17個と最も多く、また、他の刻印と重複して刻まれているものもありました。△は豊後岡藩（現在の大分県竹田市）の中川家のものと考えられています。

今回みつかった26個の石は、石切り場から切り出された石がこの近くで加工された際の残石、あるいは石垣の裏込めや補修用として保管されていたものが、堀に捨てられた可能性などが考えられます。

大阪府立成人病センター整備事業に伴う大坂城跡の発掘調査現地公開資料

編集発行／ 公益財団法人 大阪府文化財センター

〒590-0105 大阪府堺市南区竹城台3丁21番4号 TEL 072-299-8791

発行日／平成25年11月23日